

# 第7章 安心できる保健・医療・福祉体制の構築

## 1 安心できる医療体制

本市では平成21年度（2009年度）に浜田医療センターが移転新築されました。そして、地域医療拠点病院による高度医療と、開業医による地域に根差したきめ細かい医療が両輪となり、本市の医療体制を支えています。また、平成22年度（2010年度）には、住民が安心して暮らすことができ、医療従事者が安心して働くことができる地域医療体制をめざし、医療機関、関係団体、行政及び住民が力を併せて、地域医療を守ることを目的として、「浜田の地域医療を守る会」を設立し、地域医療の充実に取り組んでいます。

しかし、全国的な医師、看護師等医療従事者の不足は、深刻な問題となっており、浜田医療センターにおいても、特定診療科の常勤医師の不在や不足がみられ、また、中山間地域を中心に無医地区が点在しています。

この現状を踏まえ、本市では、平成24年（2012年）3月に「浜田市健康づくりと地域医療を守り育てる条例」を制定しました。将来の地域医療を担う人材の育成や招へいを行うとともに、民間医療機関や国民健康保険診療所、中核病院との連携と医療に対する住民理解により、市民がそれぞれの地域で安心して暮らせる医療体制のさらなる充実に向けた取り組みを行います。

### ● 具体的な事業

#### ○地域医療ネットワーク(医療機関の機能分担と連携)の充実

- ・医療への住民理解を深める啓発活動
- ・切れ目のない医療サービスに向けた保健・福祉関係機関との協力・連携
- ・テレビ会議システム、電子カルテ等情報通信技術の積極的な活用
- ・脳卒中クリティカルパス等地域医療クリティカルパスへの参画

#### ○へき地医療体制の充実

- ・国民健康保険診療所の継続運営とへき地支援を行う民間医療機関との連携
- ・デマンドタクシー等通院手段の確保
- ・在宅医療への支援

#### ○救急医療体制の充実

- ・休日応急診療所の継続運営
- ・初期・二次・三次救急医療の連携強化
- ・広域的な搬送体制強化への支援
- ・市民に対する医療情報の提供

#### ○医療従事者の育成確保

- ・各種地域医療従事者研修の実施
- ・医療従事者をめざす若者を育てる取り組み
- ・医師招へいに向けた情報発信
- ・離職防止・復職支援に向けた取り組み

## 2 効果的な保健体制・安心できる福祉体制

本市では、特定健康診査・特定保健指導やがん検診、人間ドックなど各種健（検）診等を実施しており、市民の生活習慣病の予防や疾病の早期発見・早期治療に努めています。小児期から高齢者までライフサイクルを通じて、健やかに安心して、住み慣れた地域の中で、いきいきと生活することができる社会をめざし、各種事業等や関係機関と連携しながら、「効果的な保健体制・安心できる福祉体制」のさらなる充実を図ります。

### ● 具体的な事業

#### ○保健・福祉・医療の連携

- ・医師会等との検討会や連絡会の開催  
（特定健診等説明会、予防接種事故防止研究会など）
- ・地域の健康に関係する各種会議や検討会への出席  
（地域ケア会議、地域職域会議、連携パス会議等）
- ・多職種との連携

#### ○保健・福祉・医療の人材の育成・確保

- ・保健師、栄養士等の専門職の人材育成と確保、適正な配置
- ・キャリア年数に応じた能力獲得と役割の発揮
- ・地域の理解者としての健康ボランティア等の地域活動に携わる人材の育成と確保

#### ○関係機関・関係団体との連携

- ・地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、自治会等地域住民組織、地域の健康づくり組織、浜田市高齢者クラブ連合会、女性組織等の各種団体、公民館、NPO、各相談機関との連携
- ・島根県及び浜田保健所等とともに情報交換や、各種事業や検討会等を通じて連携を強化

#### ○災害等健康危機対策への対応

- ・総合的な防災対策の中で、健康課題への対策を関係機関と連携して対応

## 3 継続・発展する保健医療福祉体制

本市では、浜田市保健医療福祉協議会を開催し、各計画に関する統計データを毎年まとめながら評価を行っています。また、各計画策定時には専門部会を設置し、計画に対する進捗状況や課題等を共有しています。一方で、保健医療福祉分野の課題は複雑化、多様化する中で、協議会や専門部会における役割も重要なものとなっていることから、今後も引き続き保健医療福祉体制の強化に努めます。

### ● 具体的な事業

#### ○浜田市保健医療福祉協議会体制の継続的発展・各種計画管理体制の再構築

- ・浜田市保健医療福祉協議会の機能強化
- ・各計画策定時における専門部会の機能強化

#### ○保健医療福祉人材育成支援、確保支援事業

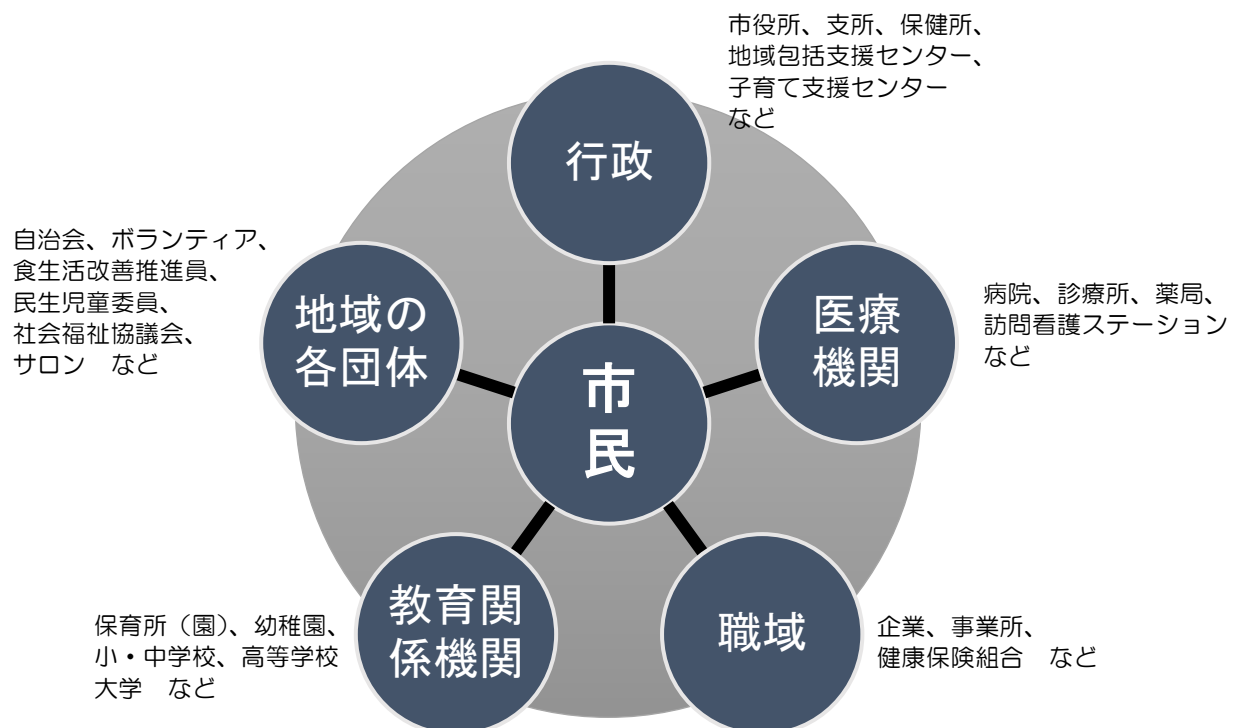
- ・県との協働による人材確保、育成支援体制の構築

# 第8章 計画の推進体制と目標値

## 1 計画の推進体制

### (1) 協働による計画の推進

市民一人ひとりが主体的に健康づくりを進めていけるように、行政はもとより、地域の各団体・教育関係機関、医療機関、職域等が連携して計画を推進していきます。



### (2) 行政における連携

総務部、地域政策部、財務部、健康福祉部、市民生活部、産業経済部、都市建設部、教育部等、各部局、各支所が相互に連携を図りながら、市民の健康づくりに取り組みます。

### (3) 計画の進捗管理

計画の進捗状況の点検及び評価は浜田市保健医療福祉協議会において行い、必要に応じて地域保健医療専門部会を開催します。目標年度の平成34年度(2022年度)までにアンケート調査を実施するなど、数値目標の評価を行い、計画や施策の見直しを行います。また、既存の会議を活用し、健康づくり活動の進捗状況を確認し、また、必要に応じては見直すなど、PDCAサイクルにそった活動を推進します。

## 2 目標指標の一覧

### (1) 重点目標

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	重点目標	資料
平均寿命の延伸	男性	78.14歳	80.44歳	延ばす	平成27年完全生命表による国の平均寿命の男性は80.75歳、女性は86.99歳で平成22年の男性は79.55歳、女性は86.05歳あり、男性は1.20歳、女性は0.94歳延びています。本市の基準値と実績値を比較すると男性は2.30歳、女性は0.08歳延びており、実績より延ばすことを目標とした。	共通事項	島根県健康指標データベースシステム (平成23～27年の平均)
	女性	86.38歳	86.46歳	延ばす			
65歳の平均自立期間 (健康寿命)の延伸	男性	16.43年	16.77年	17.46年以上	平成25年を中間年とする5年の島根県平均値を目標とした。	介護予防の推進	
	女性	20.03年	19.74年	20.92年以上			
脳卒中による年齢調整死亡率(人口10万対)の減少	男性 40～64歳	56.2	33.7	33.0以下	平成25年を中間年とする5年の島根県平均値を目標とした。	脳卒中・糖尿病の発症予防と重症化予防の推進	
	女性 40～64歳	-	22.7	14.2以下			
特定健康診査受診率	40～74歳 国保被保険者	42.0%	48.2%	60%以上	国の第三期医療費適正化計画における市町村国保の目標値に合わせて設定した。		島根県国民健康保険連合会法定報告 (平成28年度)
特定保健指導実施率	40～74歳 国保被保険者	14.5%	23.8%	増加	国の第三期医療費適正化計画における市町村国保の目標値は、60%であるが、これまでの実績を鑑み、実現可能性を考慮して設定した。		
全がんによる年齢調整死亡率(人口10万対)の減少	男性 75歳未満	-	97.3	92.1以下	平成25年～平成29年の島根県がん対策推進計画の数値を目標とした。	がん対策の推進	島根県健康指標データベースシステム (平成23～27年の平均)
	女性 75歳未満	-	60.7	46.1以下			
自死による年齢調整死亡率(人口10万対)の減少	男性 40～64歳	-	60.0	45.4以下	平成25年を中間年とする5年の島根県の平均値を目標とした。	心の健康づくりの推進	
地域でのサロンや集会等のグループ活動に参加している人の増加	18歳以上	29.2%	23.1%	50%	現在参加していない人のうち、3分の1程度が参加することを目標とした。	健康コミュニティづくりの推進	
地域の人たちとつながりがあると感じている人の増加	18歳以上	62.0%	53.0%	60%	現在地域のつながりを感じていない人のうち、1割増がつながりを感じるができるようになることを目標とした。		健康増進食育推進計画アンケート (平成29年度)
妊娠・出産について満足できる地域と思う人の増加(新規)	18～49歳	-	38.4%	増加	増やすことを目標とした。	子育て支援の推進	乳幼児健診結果 (平成28年度)
子育てをしやすい地域と思う人の増加(新規)	18～49歳	-	52.5%	増加	増やすことを目標とした。		
一人で子育てしているような気がする人の減少(新規)	乳幼児健診受診者	-	乳児健診 12.4% 1.6歳児健診 8.2% 3歳児健診 8.3%	減少	減らすことを目標とした。		
社会から取り残された気がする人の減少(新規)	乳幼児健診受診者	-	乳児健診 6.6% 1.6歳児健診 3.9% 3歳児健診 2.8%	減少	減らすことを目標とした。		

## (2) 健康管理の実践

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	資料
健康づくりを実践していると思う人の増加(新規)	18歳以上	-	-	50%以上	市民の半数が健康づくりの取り組みができるようになることを目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査(平成29年度)
自分は健康だと思う人の増加	18歳以上	71.5%	70.4%	80%以上	前回計画とあまり変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
今の生活が幸せだと思う人の増加	18歳以上	83.1%	78.1%	85%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも1割増を目標とした。	
家庭で体重測定をする人の増加	18歳以上	72.7%	72.9%	80%以上	前回計画とあまり変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
家庭で血圧測定をする人の増加	18歳以上	48.8%	47.9%	50%以上	前回計画とあまり変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
胃がん検診受診者数	40歳～69歳	-	578人	増加	国のがん検診の受診率の算定にあたっては、40歳から69歳まで(子宮頸がんは20歳から69歳まで)を対象としており、その年代の受診者数を増やすことを目標とした。	地域保健・健康増進事業報告(平成28年度)
大腸がん検診受診者数	40歳～69歳	-	2,718人	増加		
肺がん検診受診者数	40歳～69歳	-	465人	増加		
子宮頸がん検診受診者数	20歳～69歳	-	948人	増加		
乳がん検診受診者数	40歳～69歳	-	1,441人	増加		
胃がん検診精検全数把握	要精密把握率 検査者把握率	83.6%	100%	100%	がんの死亡率を減らすためには、受診率の向上とともに、精密検査受診率の向上が重要と考え、未受診者を100%把握し、受診勧奨を行うことを引き続き目標とする。	
肺がん検診精検全数把握未受診率	要精密把握率 検査者把握率	89.3%	98.5%	100%		
大腸がん検診精検全数把握	要精密把握率 検査者把握率	78.7%	80.5%	100%		
子宮頸がん検診精検全数把握	要精密把握率 検査者把握率	18.5%	100%	100%		
乳がん検診精検全数把握	要精密把握率 検査者把握率	97.6%	100%	100%		
乳幼児健診受診者の全数把握(新規)	乳児、1歳6か月児 3歳児健診把握率	-	100%	100%	児童虐待防止の観点からも全数把握を目標とした。	乳幼児健診結果(平成28年度)
出生児の全数把握(新規)	赤ちゃん訪問、乳健	-	100%	100%		赤ちゃん訪問・乳幼児健診結果(平成28年度)
乳幼児健診精密検査全数把握(新規)	乳児、1歳6か月児 3歳児健診把握率	-	乳児健診 91.7% 1.6歳児健診 90.9% 3歳児健診 97.7%	100%	全数把握を目標とした。	乳幼児健診結果(平成28年度)
予防接種率(新規)	麻疹風疹(1期) 麻疹風疹(2期) BCG 接種率	-	麻疹風疹(1期)84.9% 麻疹風疹(2期)97.8% BCG 111.3%	各95%以上	国の目標接種率を目標とした。	予防接種実施報告(平成28年度)

把握率:対象者に対して、働きかけを行い状況把握できた割合

### (3) 健康的な食生活の実践

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	資料
自分の適正体重を知っている人の増加	18歳以上	62.1%	61.8%	75%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも2割増を目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査 (平成29年度)
朝食を毎日食べる人の増加	男性 20～39歳	75.5%	80.5%	85%以上	前回計画の目標を達成できていないことから、引き続きめざす。	
	女性 20～39歳	87.0%	82.5%	90%以上	前回計画の目標を達成できていないことから、引き続きめざす。	
日常生活で塩分をとり過ぎないように気をつけている人の増加	18歳以上	-	32.0%	40%以上	今回新たに目標項目として掲げており、実績よりも2割増を目標とした。	
外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にしている人の増加	18歳以上	32.0%	30.8%	40%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも2割増を目標とした。	
間食を控えている人の増加	18歳以上	64.4%	56.4%	70%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも2割増を目標とした。	
毎食野菜を使った料理を食べている人の増加	18歳以上	-	32.2%	40%以上	今回新たに目標項目として掲げており、実績よりも2割増を目標とした。	
牛乳・乳製品を積極的に食べるようにしている人の増加	18歳以上	68.5%	65.6%	80%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも2割増を目標とした。	
食事バランスガイドを知っている人の増加	18歳以上	38.4%	34.9%	40%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも2割増を目標とした。	
毎日の食事にいつも主食・副菜・主菜がそろっている人の増加	18歳以上	-	41.3%	50%以上	今回新たに目標項目として掲げており、実績よりも2割増を目標とした。	
家族や友人と共に食事をしている人の増加	18歳以上	79.3%	78.5%	80%以上	前回計画の目標を達成できていないことから、引き続きめざす。	
早食いではない人の増加(新規)	浜田市特定健康診査受診者 (40～74歳)	-	76.2%	90%以上	今回新たに目標項目として掲げており、実績よりも2割増を目標とした。	特定健康診査質問票 (平成28年度)
食生活改善推進協議会による行事の開催回数及び参加者数の増加	食生活改善推進員	-	生活習慣病予防事業 回数 258回 参加者数 9,743人 介護予防事業 回数 128回 参加者数 2,253人	増加	引き続き普及活動の推進をめざすことから、増加とした。	浜田市食生活改善推進協議会活動報告 (平成28年度)
食生活改善推進員の新規会員の増加	市民	-	56人	60人以上	定期的な養成講座の開催により新規会員60人以上をめざす。	

#### (4) 運動の実践

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	資料
歩くことを心がけている人の増加	18歳以上	62.3%	55.4%	65%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも2割増を目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査 (平成29年度)
(仕事以外にスポーツ、運動をしている人のうち)週1回以上運動する人の増加	18歳以上	30.1%	30.8%	35%以上	前回計画よりあまり変化がないことから、実績よりも2割増を目標とした。	
ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を知っている、聞いたことがある人の増加	18歳以上	20.6%	37.3%	50%以上	前回計画より16.7ポイント改善していることから、実績に改善率を加えたものを目標とした。	
1回30分以上軽く汗をかく運動を週2回以上実施する人の増加(新規)	浜田市特定健康診査受診者 (40~74歳)	-	38.4%	45%以上	今回新たに目標項目として掲げており、実績よりも2割増を目標とした。	特定健康診査質問票 (平成28年度)
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施する人の増加(新規)	浜田市特定健康診査受診者 (40~74歳)	-	44.1%	50%以上	今回新たに目標項目として掲げており、実績よりも2割増を目標とした。	特定健康診査質問票 (平成28年度)

#### (5) 睡眠と心の健康づくりの推進

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	資料
ストレス解消方法を持っている人の増加	18歳以上	60.4%	60.8%	65%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査 (平成29年度)
ストレスを感じた時に相談できる人がいる人の増加	18歳以上	60.9%	64.8%	70%以上	前回計画時より改善していることから、実績よりも1割増を目標とした。	
睡眠による休養を十分、まあまあとれている人の増加	18歳以上	68.6%	62.7%	70%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも1割増を目標とした。	
家庭や社会で役割がある人の増加	18歳以上	70.4%	68.6%	75%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
趣味を持っている人の増加	18歳以上	65.5%	60.2%	65%以上	前回計画より悪化していることから、実績よりも1割増を目標とした。	
今の生活に生きがいがある人の増加	18歳以上	70.4%	68.1%	75%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
22時以降の就寝する児の減少(新規)	3歳児	-	29.6%	減少	早寝の習慣をつけることを目標にした。	乳幼児健診結果 (平成28年度)

## (6) 禁煙の推進

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	資料
たばこを吸っている人の減少	20歳以上	16.5%	17.1%	15%以下	前回計画より悪化していることから、実績よりも1割減を目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査 (平成29年度)
	男性 20～39歳	41.5%	40.8%	35%以下	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割減を目標とした。	
	女性 20～39歳	10.9%	11.3%	10%以下	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割減を目標とした。	
たばこを以前吸っていたがやめた人の増加	20歳以上	21.8%	24.4%	25%以上	前回計画時より改善していることから、実績よりも1割増を目標とした。	
たばこを吸ったことがない人の増加	20歳以上	56.2%	54.8%	60%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
COPD(慢性閉塞性肺疾患)を知っている、聞いたことがある人の増加	18歳以上	36.0%	39.3%	50%以上	前回計画時より改善していることから、実績よりも2割増を目標とした。	

## (7) 適正飲酒の推進

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	資料
多量飲酒者(1日3合以上)の減少	男性 20歳以上	18.6%	6.6%	6%以下	前回計画時より改善していることから、実績よりも1割減を目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査 (平成29年度)
	女性 20歳以上	6.1%	1.8%	1.5%以下	前回計画時より改善していることから、実績よりも1割減を目標とした。	
毎日2合以上飲酒者割合の減少(新規)	男性 20歳以上	-	20.1%	6.8%以下	県の目標に合わせた。	
毎日1合以上飲酒者割合の減少(新規)	女性 20歳以上	-	3.9%	2.6%以下	県の目標に合わせた。	



## (8) 歯・口腔ケアの推進

目標項目	対象	平成24年 (2012年)	平成29年 (2017年)	目標値 (平成34年 (2022年度))	目標値の設定根拠	資料
1日に1回以上ていねいに歯を磨く人の増加	18歳以上	67.9%	70.9%	80%以上	前回計画時より改善していることから、実績よりも1割増を目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査 (平成29年度)
食べたいものがかめる人の増加	60歳代	82.7%	81.5%	90%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
フッ化物配合歯磨き剤を使用している人の増加	18歳以上	32.5%	34.7%	40%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
3歳児のう歯有病者率の減少	3歳児	13.4%	7.7%	7%未満	前回計画時より大幅に改善していることから、実績よりも1割減を目標とした。	乳幼児健診結果 (平成28年度)
定期的に歯の検診、歯石除去を実施する人の増加	18歳以上	26.1%	33.5%	35%以上	前回計画時より改善していることから、実績よりも1割増を目標とした。	健康増進食育推進計画アンケート調査 (平成29年度)
60歳で24本以上の歯がある人の増加	60歳～64歳	51.6%	49.4%	55%以上	前回計画時より変化がないことから、実績よりも1割増を目標とした。	
80歳で20本以上の自分の歯を有する人の増加	75～84歳のうち20歯以上	24.0%	35.7%	40%以上	前回計画時より改善していることから、実績よりも1割増を目標とした。	
歯の病気が健康に与える影響について知っている人の増加	18歳以上	29.1%	37.8%	45%以上	前回計画時より改善していることから、実績よりも2割増を目標とした。	